

金武湾港



沖縄県土木建築部港湾課

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2

☎098-866-2395

URL : <https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/doboku/kowan/keikaku/documents/okinawanokouwan.html>

1. 概況

金武湾港は、沖縄本島中部の東海岸に位置し、北の宜野座村漢那から南の勝連半島まで1市1町1村にまたがる約19,400haの広大な海域を有する湾港であり、湾口部から湾奥部まで適度な水深があることなどから大型港湾として注目されてきた。

特に、屋慶名地区は周辺離島への連絡基地港及び漁港として古くから利用され、また、戦前は水深が深いことから軍港としても利用されていた。

昭和40年代に入ると、ガルフ・アジア・ターミナル（現在の沖縄ターミナル）が平安座島へCTS（石油貯蔵基地）の建設、ガルフ石油（現在の沖縄出光株）が油槽所の建設を開始し、昭和48年には沖縄石油基地株が平安座島・宮城島間を埋立てCTSの建設を開始した。また、石川の赤崎地区にも三菱鉱業セメント（現在の宇部三菱セメント）、沖縄電力等が立地し、大型港湾としての発展の期待が高まった。

沖縄の本土復帰とともに、琉球政府から沖縄県に移管され、その後の石油元売り企業の稼働等により飛躍的に港湾取扱貨物量が増大することになったことから、昭和49年4月には中部開発の拠点として重要港湾に指定された。

その後の金武湾港の港湾整備は、各港湾計画の整備目標に従い、赤崎地区、天願地区及び金武地区へ石炭火力発電所等が立地し、現在は、平安座南地区において航路の整備が進められている。